

自主企画

11月28日(土)10:00～12:00

本館棟4階4201講義室

大規模双生児横断調査から見てくる遺伝・環境・発達

話題提供者 安 藤 寿 康（慶應義塾大学）
加 藤 憲 司（国際医療福祉大学・大阪大学（非会員））
敷 島 千 鶴（慶應義塾大学）
山 形 伸 二（日本学術振興会・慶應義塾大学）
高 橋 雄 介（日本学術振興会・慶應義塾大学・イリノイ大学）

司 会 高 橋 雄 介（日本学術振興会・慶應義塾大学・イリノイ大学）

概 要

2007年3月及び5月、科学技術振興機構「脳科学と教育」プログラムによる首都圏ふたごプロジェクト(Tokyo Twin Cohort Project; ToTCoP; Ando et al., 2006, 高橋・安藤, 2009)は、首都圏近郊在住の3～26歳の双生児のいる20,252家庭を対象として、「ふたごを対象としたところとからだの成長・子育て・教育に関する大規模調査」と題した連結不可能匿名式の大規模横断調査を郵送法により実施し、計4,113家庭から有効な回答を得た。

調査における年齢カテゴリ及び回答者は、3～6歳（保護者回答）、7～9歳（保護者回答）、10～12歳（保護者回答と自己回答）、13～18歳（保護者回答と自己回答）、19～26歳（自己回答）であり、子どもの発達・成長や親の子育て・教育についてたずねるため、年齢カテゴリごとに適切な調査票が設計されている。

本シンポジウムでは、この大規模双生児横断調査の概要及び人間行動遺伝学の基本的な方法論について概説したのち、各話題提供者は、パーソナリティ・社会的態度・学業成績・問題行動・身体的/精神的健康・親の養育態度など多岐に渡る人間の行動形質の個人差について、遺伝の影響と環境の影響を量的に評価できる人間行動遺伝学の手法を用いた分析結果を報告する。また、各話題提供者は、幼児期から成人期のうち複数の年齢カテゴリの双生児データを用いた解析を行い、年齢カテゴリを超えた類似点・相違点を加味した考察・議論を行う。